

2019 年生まれのホッケに注目 — 道東太平洋における生態解明に向けて —

【はじめに】

ホッケは北海道を代表する重要な水産資源ですが、近年漁獲量が低水準にあります。本種は北海道周辺に広く生息していますが、生態的特徴や漁獲量変化の類似性から、「道北群」、「道南群」、「根室海峡・太平洋群」の3つの群に分けて、複数の水産試験場が協力して調査研究を行っています（図1）。「根室海峡・太平洋群」のホッケは主に根室海峡で漁獲されています。そこで釧路水産試験場では、根室海峡で漁獲されるホッケを主なモニタリング対象とし、漁獲変動のメカニズムを明らかにしてきました。しかし、太平洋で漁獲されるホッケの情報は少ないのが現状です。例えば、根室海峡と太平洋の漁獲量の推移を見ると、おおむね動向が一致していますが、2000年代前半には太平洋のみで漁獲量が増加したことがありました（図2）。なぜこのような現象が起きたのか、要因は不明なままです。もしかすると「根室海峡・太平洋群」という広い範囲で捉えているホッケですが、実は根室海峡と太平洋で生態や漁獲変動のメカニズムが異なるのかもしれない。これを解明するには、第一段階として情報が少ない太平洋で漁獲されるホッケの成長や成熟といった基本的な生態を調べるのが重要です。

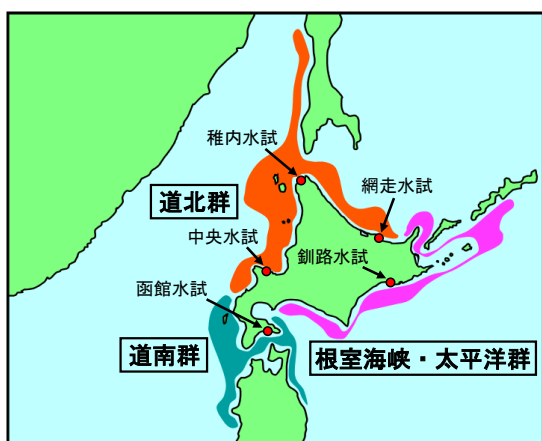


図1 北海道周辺のホッケ分布図

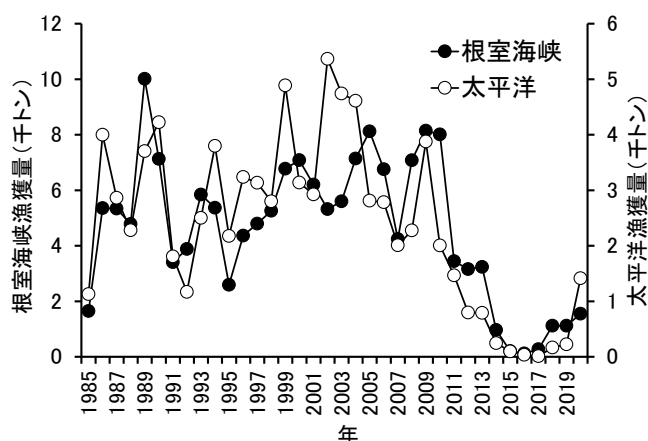


図2 根室海峡・太平洋海域のホッケ漁獲量

【調査船調査で漁獲されたホッケ】

釧路水産試験場では、毎年11月にスケトウダラの分布量を調べることを目的として試験調査船「北辰丸」(図3左)による調査船調査を行っています。この調査では、計量魚群探知機(計量魚探)でスケトウダラの分布量を計測することに加え、スケトウダラの体長や年齢を調べるため着底トロール網を用いて漁獲試験を行っています(図3右)。漁獲試験ではスケトウダラ以外にも様々な魚種と一緒に漁獲されます。2020年調査では厚岸沖、大津沖、広尾沖の3海域でそれぞれ2~3回漁獲試験を行い、近年ほとんど漁獲されなかったホッケがまとめて漁獲されました(図4)。これらのホッケを試験場に持ち帰り、体長と年齢を調べると、23~32cm台で全て1歳でした(図5)。2020年時点で1歳であることから、これらのホッケは2019年生まれであることが分かりました。

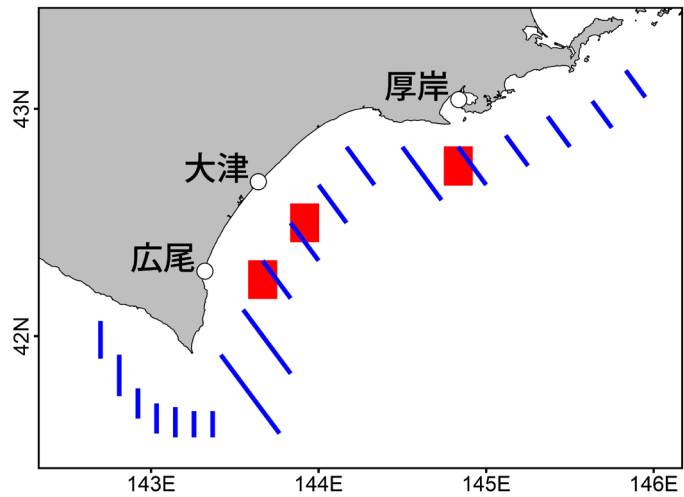


図3 11月に調査船調査を実施した北辰丸（左）およびスケトウダラ調査点図（右）

※計量魚探：—
※漁獲試験：■

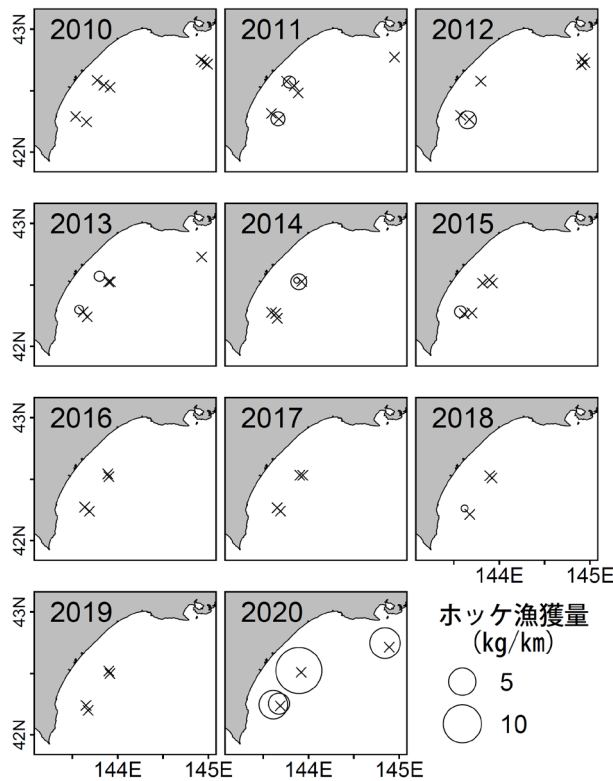


図4 漁獲試験における曳網距離1kmあたりのホッケ漁獲量

×：漁獲なし

【2019年生まれのホッケ】

2019年生まれのホッケは今年2021年には2歳になっています。今年も例年同様11月に調査船調査を実施します。この調査で再び2019年生まれのホッケが漁獲された場合、2020年の1歳時点の結果と比較することで、1年でどれだけ成長したかを調べることが可能となります。このように2019年生まれのホッケを追いかけることで、太平洋におけるホッケの基本的な生態の一端が明らかになると考えられます。さらに、根室海峡のホッケ比較することで、「根室海峡・太平洋群」全体のホッケの生態や漁獲変動のメカニズムが詳細に解明されることが期待され、今年の調査結果を注視していきます。

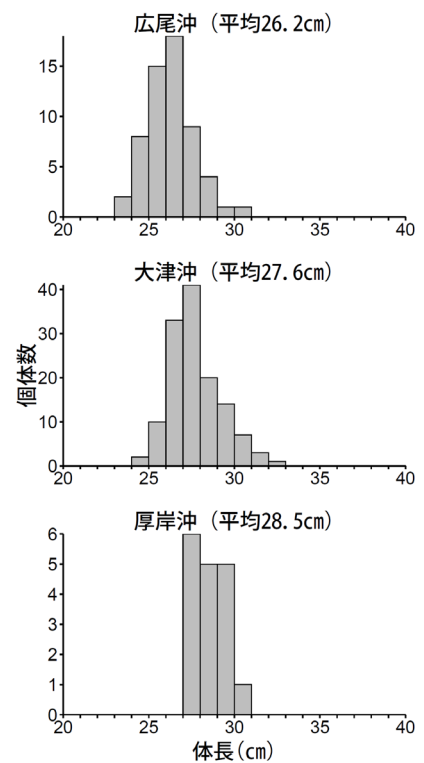


図5 2020年11月の調査船調査で漁獲されたホッケの体長組成